



院内御意見箱から 一院内図書を整備中です

読み終えられた本があればお譲りくださいー

院内御意見箱に貴重な御意見を頂いております。病院の接遇、院内環境などの改善に活かしていきます。寄せられた御意見と対策をご紹介します。

回復期リハビリテーションにご入院の方から、「入院中の徒然に読めるような図書を病棟に置いてほしい。」と希望されました。この御意見を受けて、病院職員に家庭で読み終えた図書を寄贈してもらうよう提案しました。図書担当係りを決め、病棟や外来に院内図書を開設する準備中です。



目の悪い方も、絵だけ眺めて気分転換をはかることもできます。

患者様から読み終えた本の寄贈も承っております。事務局にお申し出ください。

第二協立病院事務局

<院内病歴統計>

看護部では入院時から転倒危険度を評価して予防に努めています。当院はリハビリ目的の方も多くおられ、危険が高い順に 危険度Ⅲ:8.9% Ⅱ:84.3% Ⅰ:6.8%です。この様な割合の中でも去年度、転倒した件数のうち約22.5%が危険度Ⅲの方で、怪我など受傷率も高くなっています。



入院中の転倒転落事故には細心の注意を払っていますが、高齢者の方々にリハビリ訓練で効果がでてきて喜ばしい中、行動範囲が広がった反面、転倒転落の危険度はさらに上がります。そこで、危険度評価を各職種で共有し、転倒事故を少しでも転倒事故防止対策を検討・努力しています。

危険度の高い患者様には、転落防止の離床センサーを付けて頂くようお願いをし、環境調整、見守り、ベッド柵の工夫、筋力アップ訓練などリハビリスタッフと相談しながら個別対策をとっています。

編集部を結成しました

濱路院長をはじめ、事務の高橋さん、ST園さん、そして看護部浜辺で構成しています。我々編集部も素人ながら日々情報をかき集め頑張って編集を行っていきたく思います。今回第2回は、新館オープンに際して、各部署からコメントをいただきました。真新しい建物や備品に囲まれ患者様のより良い環境に整えるべく、職員全員で一丸となって奮闘しています。今後ともよろしくお願ひします。

第2回担当 浜辺玲子

新病棟の運用を開始しました

新病棟を竣工して以降、着々と準備を重ねてきました。10月1日に新館2階は回復期リハビリテーション病棟、3階は障害者病棟として病棟運用を開始しました。

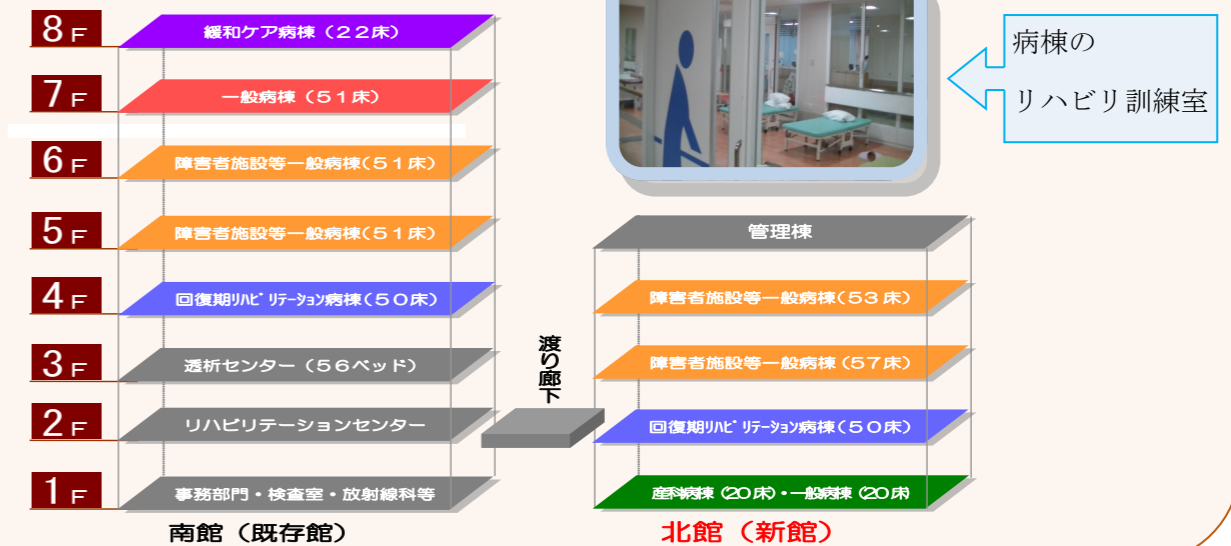
新病棟2階(北2階病棟)では、病棟中央に据えられたリハビリ訓練室で、各種装具を備えて訓練が開始されています。また、北3階病棟では、神経難病や重度障害を受けた方々の入院生活を開始されています。

窓から見える北病棟からの眺望は南病棟にかないませんが、真新しい病室はとても好評です。新たに編成された看護、介護スタッフとの連携を図り、ケアと環境づくりに努力しています。

北1階の周産期病棟は10月末の出産を機に、運用開始となりました。出産予約や里帰り分娩の予約照会が寄せられています。周辺施設の周産期診療が縮小される状況にありますが、収容能力の充実に努めます。

従来からのリハビリテーション機能のみならず、周産期医療を充実して地域医療に、貢献できるよう努力いたします。

第二協立病院 院長 濱路政靖



第二協立病院に小児科が移転しました

小児科: 恵谷 すま子 尾崎 禮子

8月より医療法人協会の協立病院から第二協立病院に移転しました。

従来からの協立病院小児科におりました医師の2名が引き続き担当しております。

新しいスタッフとともに患児や御家族に寄り添った小児科医療を目指しています。

予防接種外来 毎週水曜日 午後 予約制

任意接種 水痘、ムンプス(おたふくかぜ)、麻疹、風疹

A型肝炎、B型肝炎、破傷風など

緊急ワクチン接種(通常時間内)をご希望の方は、電話予約お願いします ☎072(758-1123)

産婦人科病棟オープンしました！！

この度、産婦人科病棟オープンを迎え、10月28日に赤ちゃんが無事出産され、本院での第一号となりました。また、年明けから分娩を控えている患者様も増えてきています。新たに女性産婦人科医2名と看護師、助産師数名を迎え、スタッフ一同、初心に立ち返り、快適で楽しい妊娠・分娩・育児環境を作るお手伝いをします。そして、近隣病院との連携も進み診療体制の整備が整いつつあり、母児ともに最適な医療を提供できるよう準備を進めています。

また、女性のヘルスケアを積極的に広報し、予防や治療体制を拡充するため、9月末より子宮癌検診、月経異常、更年期、不妊、おりものなどに対する種々の婦人科診療も開始しましたので、御相談下さい。どうぞよろしくお願い申し上げます。



産後の腰痛・骨盤底筋群のダメージに朗報！

日本での認知度はまだ低く余り知られていませんが、フランスでは産後の身体ケアが産後リハビリテーションとして定着しています。日本でも最近では、生活習慣の変化から骨盤底筋群が低下しており、出産前後のトラブルが起こりやすく、注目されてきました。妊娠すると姿勢の変化や、出産に向けて骨盤周囲の関節の弛みがでます。また、産後は骨盤底筋群のダメージも大きく、腰痛や尿漏れ、恥骨痛、子宮脱などの引きがねになります。

当院ではリハビリスタッフが、産前から腰痛予防体操やリラクセス法を指導しスムーズな出産へ向けて関わります。産後は、入院中より個別対応で骨盤底筋群をはじめとする筋力の回復や全身調整を行い、産後の身体ケアを行います。当院より産前産後のリハビリの必要性を発信し、病院での新しい産科のスタイルを産科スタッフとともに作っていきましょう。



リハビリテーション部

新設シリーズ:産科豆知識 「葉酸サプリメントと胎児発育」

1日0.4mgの葉酸サプリメントは胎児の神経管閉鎖障害のリスクを下げる

神経管閉鎖障害とは先天性の脳や背骨の癒合不全のことで、無脳症や二分脊椎と呼ばれる重症奇形が含まれます。日本では無脳症の発生頻度は(出生1万対)1.34、二分脊椎は5.49で発生頻度は比較的低い疾患です。

1991年、欧州で前回このような児を妊娠した既往のある女性が1日4mgの葉酸(ビタミンの一種、細胞の成熟を助けるとされています)を服用すると再発のリスクを72%減少できたと報告されました。

諸外国の報告を受け日本でも、妊娠前から1日0.4mgの葉酸サプリメントを摂取すると、このような奇形発症の予防を期待できるとされています。

ただし、1日1mgを超えると喘息の発症リスクを上昇させる可能性があるとして、医師の管理下でない限り摂取量は1mgを超えないようにする必要があります。種々の市販サプリメントに葉酸が添加されています。売店でも購入でき、簡単に手に入るため、過剰摂取には注意が必要です。

次回は喫煙と妊娠を取り上げます。

「家庭でも院内でも手洗いうがいは大切です」

感染対策委員会

WHO(世界保健機関)から「手指衛生の5つの瞬間」が提唱され手洗いの重要性を広報し、院内感染への職員への徹底をはかる事が求められています。

医療従事者が細菌の運び役とならないようにしようとする運動です。

これから、インフルエンザなどのウィルス感染が流行し始めます。病院では入院される患者様に予防接種を積極的に接種して頂けるよう呼びかけています。

家庭から病院へも細菌やウィルスが持ち込まれます。手洗いうがいを咳症状のある方の面会時にはマスクを着用しましょう。



成人看護Ⅱ学術集会に参加して

4F南病棟 平岡真美

看護師になって8年が経ち、今回初めて学会に研究論文を投稿し、「アクティビティケアを考える」という演題で口演発表を行うことになりました。不安な思いは大きかったですが、抄録で自分達の論文を見たときには自然と顔がにやけている自分がいました。

今回、初めて看護研究に取り組む森田さんと発表し、他施設の発表者との交流もでき、とても貴重な体験ができました。共同研究者に感謝の意を表します。

学術集会では、日本看護協会会長 坂本すが氏の講演を聞きました。2025年問題に対し、自己のアイデンティティを踏まえ、何をすべきか、どんな看護を行っていきたいかを考えることが必要であると学びました。学んだ事を参考に「より早く気づき、働きかけること」など日々の看護に活かしていきたいと思います。



消防訓練

10月新館オープンに先駆け消防訓練が行われました。

博多で病院火災があり、入院中の患者様が亡くなられた事故がありました。当院でもオープンに先駆け、火災の発生源となる危険個所の点検を行いました。

- 消火設備(消火器・消火栓・スプリンクラー)の基本操作と設置場所の確認
- 避難経路の確認
- 病棟スタッフステーション内の副受信機設備
- 火災発生時のエレベーターとの連動

